

## 総合教育センター・チャレンジセンター・To-Collabo推進室合同FD研究会 『パブリック・アチーブメント型教育とは何か』 報告書

### 実施報告

日時： 2015年6月10日（水） 17:00～18:15

場所： 東海大学湘南キャンパス 8号館4階408教室

参加者： チャレンジセンター9名、総合教育センター12名、To-Collabo推進室3名

### 1. 全体の目的

『パブリック・アチーブメント：コーチのためのガイドブック』の内容について、訳者の先生方にご講演いただき、関係部署でPAに関する予備知識を共有する。

### 2. 【講演1】パブリック・アチーブメント型教育とは何か？ －PAガイドブック第1～5章を手がかりとして－

総合教育センター 大江一平先生

はじめに、シティズンシップの定義やCOCにおけるシティズンシップ教育の位置づけについて解説された。その後、アメリカ合衆国におけるシティズンシップ教育の背景や、PA教育の例として、オーグスバーグ大学の実践が紹介された。ここでは、多数決にとどまらず、様々な立場の人が意見を交換し、交流しながら物事を決めていく「熟議民主主義」を踏まえた市民性が求められることが述べられた。その後、PAガイドブックの第1～5章の内容について、概要が解説された。例えば、積極的かつ効果的な教育とは、公的課題に対して「共創」し、無関心な態度ではなくきちんと対応していくという「応答責任」と、自分の行動を他者に対してきちんと説明できるようにする「説明責任」を担う能動的市民を育成することであることなどが解説された。

最後に、講師の専門である憲法学の観点からの検討と今後の課題が述べられた。例えば、これからは「空気を読む」日本的な意思決定ではなく、多様な価値観をもつ他者を尊重しつつ、自らものを考えものを言う能力を持つ市民を育成していくことがシティズンシップ教育の核となることなどが挙げられた。また、課題として、①シティズンシップの概念を明確にすること、②自治体や地域社会のニーズ・シーズを反映した協同参画を行っていくこと、③協同参画の場としてフリー・スペースが重要であることなどが指摘された。

### 3. 【講演2】教職員（学習支援者）に求められる役割について ーパブリック・アチーブメント（PA）のコーチングを参考にー

チャレンジセンター 堀本先生

PA教育を進める上で教職員（学習支援者）に求められる役割について、相手が何に関心があるのかを引き出していく“コーチング”を中心に解説された。特に生涯発達コーチングは、若者の主体性不足に効果をもつことが明らかになっており、教育現場で注目されているものであることが紹介された。

PA教育の実施体制としては、大学生がコーチを務め、センター等のスタッフがコーチ・コーディネーターを務めることが多いことが説明され、①コーチの力量形成の方法、②コーチ・コーディネーターの役割や関わり、③コーチングのためのツールとしての「よい質問の仕方」などについて解説された。最後に、PAとは「社会参加によって市民性を育成する」実践的方法であり、従来の教科書型の教育とは異なるものであること、支援者（教職員）がコーチの力量を育成していくことが望ましいことが解説された。

### 4. 質疑・感想等

講演内容に対する質問や感想として、①フリー・スペースについて（具体的にはどのようなものか、そこでの振り返りにコーチの存在は必要であるか）、②オグスバーク大学の実践で扱っている課題の内容について、③PA教育の効果について、④地域と学生とをつなぐコーディネーターの役割の重要性について、等がフロアから指摘され、講師からの解説を含めたディスカッションが行われた。最後に、PAについては今後も両センターで継続的に研修会を行っていくことが確認された